山陽染工

情報発信、連携で市場開拓

加工量は前年より増加

染色加工業の山陽染工（広島県福山市）は、クラウドファンディングや会員制交流サイト（SNS）情報発信とともに、他社とのコラボレーション企画「クロス・サンヨー」をはじめとした連携によって市場開拓を強めている。今期（2019年3月期）に入ってから加工量は前年比で1～2割ほど増加。新規取引先も増える傾向にある。

今年6月から7月まで、初めての試みとしてクラウドファンディング「マクアケ」を通じ、自社のデニム加工技術を用いたスニーカーとスリッポンを発売した。シューズの素材には同社の独自技術の「段落ち抜染」加工を施したデニムを使用。目標としていた50万円を大きく上回る200万円超を集めた。「これを主軸にすることはないが、技術を知ってもらうという話題作りでは成功した」（戸板一平取締役）

SNSでの情報発信や、海外バイヤーが訪れる日本貿易振興機構（ジェトロ）主催の商談会などを通じ、国内外へ知名度を高めてきたことで、取引先も広がってきた。

自社グループの山陽染工児島ファクトリー（岡山県倉敷市）や中国紡織（福山市）との連携による加工開発の増加に加え、同社のカジュアル加工と他社のファブリック・技術との組み合わせるクロス・サンヨーの取り組み先も拡大。昨年、一部の企業が染色加工事業から撤退した影響もあるが、カジュアル市場が低調な中でも加工量は前年に比べ増えつつある。

5月に開かれたPTJで好評だったインディゴプリント「サインズ」。ワンウオッシュやブリーチ（手前の生地）で一味違った風合いも出せる

5月に東京で開かれた「プレミアム・テキスタイル・ジャパン（PTJ）2019年春夏」では、インディゴプリント「サインズ」が好評だった。抜染でありながらも色落ち具合に微妙な差を付けた段落ち抜染とともに、同社ならではの特殊加工として販路を広げる。

さらに今期から来期にかけ、同社と児島ファクトリー双方で加工の幅を広げる設備の導入を計画。より差別化した加工開発で新規市場の開拓につなげる。

カネカ

生分解性樹脂を増強

マイクロプラスチック対策で需要拡大

カネカは高砂工業所（兵庫県高砂市）で生分解性樹脂「カネカ生分解性ポリマーPHBH」の製造設備を増強する。2019年12月の稼働を予定し、年産能力は約5千㌧となる。投資額は約25億円。

カネカ生分解性ポリマーPHBHは海洋中でも生分解することで国際的な認証「OKバイオデグレイダブル・マリーン」を取得している。世界的にマイクロプラスチック（五㍉以下の微細なプラスチックごみ）による海洋汚染などへの懸念が高まる中、欧州では使い捨てプラスチック製品削減に向けて各種規制強化が進む。このためカネカ生分解性ポリマーPHBHも販売量が拡大した。

3月には米国食品医薬品局（FDA）の食品接触物質（食品の製造、梱包、包装などに使用される材料の成分として食品に重大な影響を与えないとFDAが認証した製品）にも登録された。このため今後、海洋資材や食品包装などで需要拡大が期待できる。

カネカによると生分解性プラスチックの世界需要は2022年には10万㌧を超え、市場が急拡大すると予想する。こうした需要拡大に対応するために今回の生産能力増強を決めた。さらに次の段階として年産2万㌧規模の商業化プラント立ち上げも検討し、本格的な事業拡大を目指す。

マイクロプラスチック対策で注目が高まる「カネカ生分解性ポリマーPHBH」

泉州産地の小幅織物

サイジング、機業が値上げへ

10月からの改定めざす

組合に加盟する小幅機業各社への通知を終えており、今後、交渉に入る。

これを受けて小幅機業も値上げする。サイジング同じく10月1日からサイジング業者と約40軒の小幅機業が存在。ここ数年は手拭いブームやインバウンドによる需要拡大、輸入の減少などを背景に受注は旺盛で、各機

織物生産

社分）

前年月比（%）	18年1～6月	前年同期間比（%）
98.6	31,582	114.3
00.6	31,147	109.1
08.2	25,299	111.1
69.6	5,848	101.1
3.9	-	-
57.6	12,164	84.0
03.0	5,246	102.3
-	50	172.4
00.5	49,042	103.8
61.3	960	88.7
65.7	10,927	78.4
65.8	10,861	78.2
69.6	228	78.1
-	0	-
84.7	12,115	79.1

年1月から、糸の純混別は不詳

前年同月比9.5%減

18年6月の紡協綿糸布生産

日本紡績協会のまとめによると、会員企業16社の2018年6月の紡績糸生産は7672㌧（前年同月比9・5%減）だった。そのうち綿糸は5071㌧（8・6%増）、合繊糸は1670㌧（42・4%減）だった。

兼営織布生産は170万2千平方㍍（35・3%減）、うち綿織物生産は13万8千平方㍍（48・7%減）、合繊織物生産は152万1千平方㍍（34・3%減）だった。

地産地来

備三

ジーンズバス、1日乗り放題

児島地区（岡山県倉敷市）で運行されている「児島ジーンズバス」はJR児島駅を起点に、1日6便がジーンズに関連する各施設、野崎家旧宅などの名勝をぐるりと循環している。

デニムカラーの外装ラッピングだけでなく、内部もジーンズのディスプレーを施し、つり革や運転手の制服までデニムが用いられるなど、こだわりのバスだ。

現在、JR西日本がこのバスの1日乗車券を発売している。価格は大人が510円で、子供は260円とのこと。この乗車券を紹介するパ